

www.creekaudio.com

EVOLUTION 100A

Integrated Amplifier

取り扱い、説明書

この度は、Creek AudioのEVOLUTION 100Aを、お求め頂きありがとうございます。この商品は、最高のパフォーマンスを、提供できる能力を備えております。且つ、プリメインアンプとしての、機能と操作は、シンプルですが、下記に、その仕様と操作方法を、明記させていただきます。

英文のUser Manualは、最新版がCreekウェブサイト_www.creekaudio.comより、ダウンロードが可能です。www.creekaudio.comのproduct pageで、EVOLUTION 100Aを選択、次にInstructionsのタブをクリックします。

UNPACKING AND LOCATING THE AMPLIFIER – 内容の確認とアンプの設置

初めに以下に書かれているもの全てが入っているかを確認してください。:

- . EVOLUTION 100A 本体
- . 電源ケーブル
- . リモコンと電池
- . 取扱説明書(本書)
- . 保証登録ハガキ(UK本国と、同じシステムにて、保証書は、発行されません)

もし入っていないものがありましたら、すぐに販売店もしくは弊社までご連絡ください。

梱包材は今後の輸送のことを考え、取っておくことをお勧めいたします。

EVOLUTION 100Aは、テーブル、棚、オーディオラック等に設置して下さい。大事な、アンプ内部のヒートシンクからの放熱を促す、良い喚起が重要です。EVOLUTION 100Aの、天板と底板のスロットは、塞がない下さい。他の機器の上に、EVOLUTION 100Aを置き、重ねた状態で、底の部分に置くのは、避けて下さい。ディスプレイに、over-temperature warningの表示が出た場合は、直ちに、電源スイッチを切ります。

MAINS CONNECTION - 電源の接続

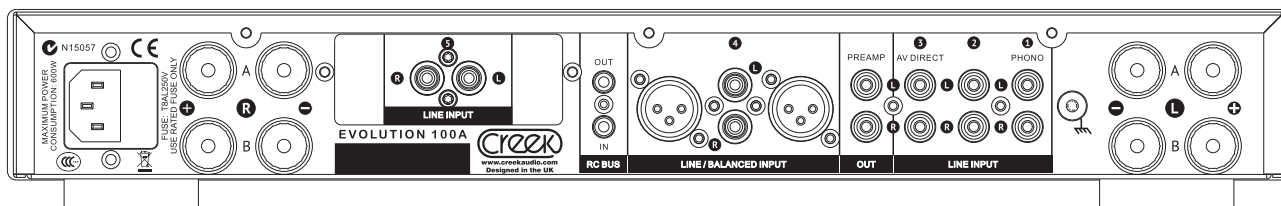
重要: 電源コードを接続する前に、底面の電源切り換えスイッチにて、選択電圧がAC115Vを、確認してください。

背面のIECソケットに、電源ケーブルを奥まで、しっかりと挿し込みます。出来るだけ、壁のコンセントから、直接に引き込み、タコ足の状態での、テーブルタップからの供給は、避けて下さい。

電源ケーブルのIECソケットには、引き出し型のフューズホルダーが、装着されています。交換する場合は、5 x 20 mm サイズの、規格(T8AL 250V)の、250V 8Aのタイムラグ(サージ防止)タイプを、使用します。不慮の事故を避けるため、規格外の部品の使用は避けて下さい。

INPUT AND OUTPUT CONNECTIONS

- 入力と出力の接続



リアーパネルには、5組の標準的な、ラインレベルの入力1-5を備えています。これらは、下記に表記の通り、オプションで、異なった希望に則した、特別メニューに対応が可能です。

* 通常のラインレベル入力は、300mV - 2V r.m.sの対応ですが、EVOLUTION 100Aでは、0 - 5.4V r.m.sの対応となり、全ての入力ソースに対応できます。

Line 1は、ラインレベル入力にて、CD,Tuner,Tape等に、対応しております。さらに、別売りのSEQUEL 40/48/54 mk2 フォノカードを、内部のプリアンプ基板に装着する事で、MM/MCカートリッジのPhono入力となります。

装着方法は、<http://www.creekaudio.com/blog/fitting-a-sequel-phono-module/>を参照下さい。

Line 2は、ラインレベル入力にて、CD,Tuner,Tape等に、対応しております。

Line 3は、このLine 3は、二つの機能を、備えております。一つは、ラインレベルの入力として。もう一つは、パワーアンプ部への直接入力として、プリ部ならびにボリュームをバイパスする「AVダイレクト」として、EVOLUTION 100Aを、AVシステムの一環として、フロントスピーカーのL/Rとして動作させる。

Line 3では、プリアンプ部をバイパスして、信号を直接パワーアンプ部に入力するのが可能なので、“Line 3ダイレクト”と呼ばれる。この特徴は、別のEVOLUTION 50CD/100CD DAC & CDプレーヤー等のボリュームコントロールで、EVOLUTION 100Aの出力を操作します。

スピーカーとのバイワイヤリング接続に続く、更なるグレードアップ方法として、パワーアンプのEVOLUTION 50Pないし100Pを用意し、Pre-Outに接続して、バイワイヤリング対応のスピーカーを、バイアンプ駆動する方法があります。

バイアンプ駆動の効果として、スピーカーのHF部ならびにLF部に於ける、歪の低減ならびに中音域のクリアーで、明瞭なサウンドの改善に、著しい効果が上げられます。

Line 4は、Line 3と同様の機能を備えております。但し、RCAとXLRの入力を、同時に使用することは出来ません。

なお、バランス(XLR)伝送は、ノイズの影響を受けずらい伝送方式にて、長い距離を引っぱる場合には、効果があります。

Line 5は、通常は、ラインレベル入力にて、CD,Tuner,Tape等に、対応しております。

Line 5は、取り外しが出来るパネル構造にて、二つのオプションが用意されており、AMBIT TunerとRUBY DACモジュールとなります。

RUBY DACの装着方法は、<https://www.creekaudio.com/blog/installing-the-ruby/>を参照下さい。

Pre-outには、パワーアンプ部へ供給されている信号が出力されます。この信号には、ボリューム、トーン他、アンプの全ての操作が影響します。必要なら、このPREAMP OUTから、もう1台のパワーアンプを動かすことができます。例えば、サブウーファーとかスピーカーのバイアンプ駆動に使用します。

CONFIGURING THE INPUTS - 入力の設定

入力設定のメニューは、一度、電源スイッチを切り、MENU ボタンを押したまま、再度、電源スイッチを投入します。下記の三通りの、“セットアップメニュー” が、ディスプレイに表示されます。

Line 3 Options

Line Level Input	通常の設定
Power Amp Input	プリアンプ部をバイパス、“AVダイレクト”モード

Line 4 Options

Line Level Input	通常の設定
Power Amp Input	プリアンプ部をバイパス、“Line 4ダイレクト”モード

Factory Defaults

全ての設定を、工場出荷時の状態に戻す

ナビゲーションは、左側のロータリーコントローラーで、行います。設定後に、再度、MENU ボタンを押せば、新しい設定にて、**EVOLUTION 100A**は動作を開始します。

Headphone Output - ヘッドフォン出力

フロントパネルの、ジャックソケットを通して、ヘッドホンを使用することができます。単独ないしスピーカーと共にかで、使用することができる。

MENUに行って、Headphone switchのオプションを通して、選択して下さい。ヘッドホンプラグが差し込まれた際に、ヘッドホンのシンボルマークが、OLEDスクリーンの下部の左手角に、表示されます。

ADDING THE INTERNAL PHONO STAGE OPTION

– 内蔵フォノステージの増設

柔軟性の一として、EVOLUTION 100Aでは、Line 1入力を、LP再生のフォノカ対応もしくはラインレベルで使用できます。LP再生には、別売りのプラグインタイプの‘SEQUELフォノカード’を、内部のプリアンプ基板に装着する必要があります。‘SEQUELフォノカード’には、MMカートリッジ用として、SEQUEL40-MK2ならびにSEQUEL48-MK2が、MCカートリッジ用として、SEQUEL54-MK2が用意されております。フォノカードが装着されると、自動的にディスプレイには、Line 1がPhonoと表示されます。

Creek Audioでは、単体のハイグレードなフォノプリアンプとして、OBH-15mk2も用意しております。

アース用ターミナル端子が、背面パネルに用意されおり、ターンテーブルからのアース線を接続します。ボリュームをフルにした状態でも、スピーカーから、ハム音が聞こえないことが、ベストな状態です。

LOUDSPEAKER CONNECTIONS - スピーカーとの接続

スピーカーとEVOLUTION 100Aは、オーディオグレードのスピーカーケーブルにて、接続して下さい。スピーカーターミナルは、撚り線、4mmバナナプラグ、スペードのYラグコネクターに対応しております。

非常に大事なこととして、正しい位相でのスピーカーケーブルの接続が上げられます。通常、スピーカーケーブルは、極性が、ラインないし印字で表示されています。スピーカーターミナルの赤(ホットないし+)を、アンプの赤(プラス)ターミナルへ、同様に、スピーカーターミナルの黒(コールドないし-)は、アンプの黒(-)ターミナルへ、接続します。もし、同じ極性で、アンプとスピーカーが接続されなければ、結果として、バス(低音)性能の厳しい損失と、ステレオイメージの不足が生じます。

非常に大事なこととして、取り返しの付かない事態を招かない為にも、EVOLUTION 100Aが通電中に、スピーカーケーブルをショートさせないことが上げられます。特に、スピーカーターミナルにケーブルの端末を巻きつける際に、撚り線の一部が、他の端子に接触しないよう、十分な注意を払われることが大切です。スピーカー位置の変更は、最初に、EVOLUTION 100Aの電源を落として、再度、スピーカーケーブルの接続を、確認してから通電して下さい。

Speakers A and B - スピーカーA と B

100Aは、2組のスピーカーを接続して、フロントパネルのメニューリモコンで、操作することができます。スピーカーA, B, A+B, or no speakersの選択は、フロントパネルのメニューボタンして、Speaker Selectionを選択します。その後、左側の入力セレクターにて、オプションを選択し、ノブを押します。なお、ディスプレイは数秒後に、標準の表示に戻ります。同じことは、リモコンのSpeaker AとBと表示された、ブルーのボタンでも同じことが出来ます。

REMOTE IN/OUT - リモート IN/OUT

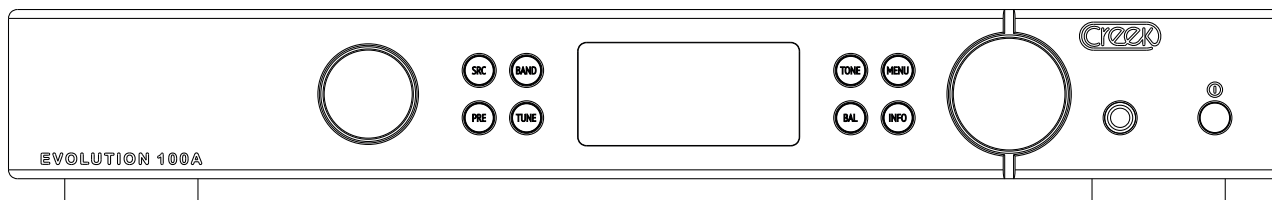
EVOLUTIONシリーズの各製品は、背面パネルの“REMOTE IN/OUT”ジャックで結合すれば、IRセンサーを使用して、連結動作が可能となります。

OPERATING THE EVOLUTION 100A

- EVOLUTION 100Aの操作

フロントパネルでの操作、左から右へ、ロータリー入力セレクターノブ、SRCとPRE、チューナー用のTUNEとBANDの4ボタン、OLEDのディスプレイウインドウ、TONE、MENU、BALとINFOの4ボタン、ボリュームコントロール、ヘッドフォンソケット、電源のon/offスイッチと続く

注意：全ての設定は、電源を切った際の状態、記憶されます。



電源スイッチが投入された後に、Creekのロゴを表示、入力とボリュームレベルが表示され、準備完了となります。入力の切り換えは、左側のロータリー入力セレクターにて、さらにリモコン操作でも可能。ボリュームの設定は、右側のロータリー操作もしくは、EVOLUTIONのリモートコンで操作、さらに、ノブを押す事でミュートのon/off操作となります。

ボリュームが、-9dBと0dBの間に調整されていて、次にミュートされると、レベルは-10dBまで減少します。電子ボリュームの、最大の減衰は-80dBです。ボリュームノブが、このレベルの下までターンされると、出力の音は、ミュートされます。

大事な点は、アンプのパワー出力は、入力機器の信号レベルとボリューム設定で、決まると言う事です。よって、低い出力信号のソースでは、同じパワー出力に達するには、より高いボリュームを必要とします。仮に、ボリュームが、聴取レベルを達成するために、0dBを表示していても、アンプがその最大の能力にて、増幅していることを意味する訳ではないので、心配には及びません。

ボリューム設定は、電源を切った時点記憶していますが、再度、電源が投入された場合でも、値は、予期しない大きい音が発生するのを防ぐために、最大で-20dBに制限されます。

MENUボタンでは、EVOLUTION 100Aに、いくつかのセットアップオプションを提供します。ボタンを押すと、3つのオプションが表示されるので、左側のコントローラーにて選択します。次に、コントローラーを押すことで、オプションの設定が表示されるので、希望する設定を選択し、再度、コントローラーを押すことで、設定が完了します。オプションの選択肢は、次の通りです。

Display Settings - ディスプレイの設定

Always On	動作中は、OLEDディスプレイが、常に点灯する
Auto Off	少し経った後に、OLEDディスプレイが、消える

Display Brightness - ディスプレイの明るさ

Full	スクリーンの明るさが最大
Medium	
Low	スクリーンの明るさが最小

Headphone Switch - ヘッドフォンによるスピーカーのOn/Off

Disable Speakers	ヘッドフォンジャックを差し込むと、スピーカーが停止
Simultaneous Use	ヘッドフォンとスピーカーの双方が動作

好みのオプションを選択し、コントロールを押すことで、構成が完了しますので、MENUキー使って、終了します。

BAL (Balance)ボタンで、左右のチャンネルの、相対的なレベルの調整を行います。BALボタンが押されると、右側のロータリーコントローラーは、バランス調整のコントローラーとなり、設定値がディスプレイに表示されます。バランスをセンターにリセットするには、単にコントローラーを押せば戻ります。

TONEボタンで、低音と高音のレベル調整を行います。最適なサウンドクオリティを維持するために、通常、トーンコントロール回路は、バイパスされています。TONEボタンを押して、表示が“Tone On”を示すまで、押し続けます。TONEボタンは、Bass, TrebleおよびVolumeで循環します。トーンの調整は、右側のロータリーコントローラーで行ない、コントロールを押すと、値はゼロにリセットされます。再び、トーン回路を無効にするには、TONEボタンを押して、スクリーンに「トーンOff」を示すまで、押し続けます。フラットな特性の為に、トーン回路をバイパスした後でも、トーン調整の設定は記憶され続けます。

HEADPHONES - ヘッドフォン

100Aでは、低いインピーダンス出力信号を、フロントパネルのジャックソケットに供給するために、専用のヘッドホンアンプを使用しています。これには、プリアンプから信号が供給されており、したがって、ライン入力3ないし4の、「AV Direct」を選択すると、信号はプリアンプをバイパスし、直接にパワーアンプに送られるので、どんな信号もヘッドホンでは、利用出来なくなります。

PROTECTION – 保護

EVOLUTION 100Aには、ショート(過電流)、オーバーヒートおよびDCオフセットの保護回路を備えています。これらの状態のどれかが起きた際、内部のスピーカーリレーが出力を隔離して、原因が表示されます。その後、原因がクリアされた後に、スピーカーは再度接続されます。

Over temperature

適切な換気があっても、オーバーヒート(over-temperature)の表示が現れたなら、スピーカーの配線に、不具合がないかチェックして下さい。また、温度が上昇すること、それは、長い期間、アンプが高い出力で、低いインピーダンスのスピーカーを動かしていることを、意味しているかもしれない。ヒートシンクの温度は、センサーによってモニターされており、INFOにて、チェックすることができる。INFOを押して、次に、アンプの電源をいれます。ヒートシンクの温度が、°Cで表示されます。

Over current

過電流(over-current)保護が起動した場合、EVOLUTION 100Aはすぐに、出力を切り離します。不具合をクリアするために、アンプの電源を落として、スピーカー配線での、ショートをチェックして下さい。他方では、動かそうとしているスピーカーは、感度が鈍過ぎるか、または非常に低いインピーダンスなので、不適當かもしれない。EVOLUTION 100Aは、2Ωの負荷まで、クリッピングすることなく、ドライブすることができる。

DC offset

DC発生‘DC presence’の警告は、アンプ内部での不具合、またはアンプへの厳しい負荷(overload)によって、時々引き起こされます。明に、歪が聞えるレベルでは、決してアンプを動作させてはいけません。状態がクリアされるならば、ボリュームを減少させてみて下さい。これは、アンプかスピーカーのどちらかで、その能力を超えた使用により、永久的なダメージをもたらす原因となります。

POWER CONSUMPTION – 消費電力

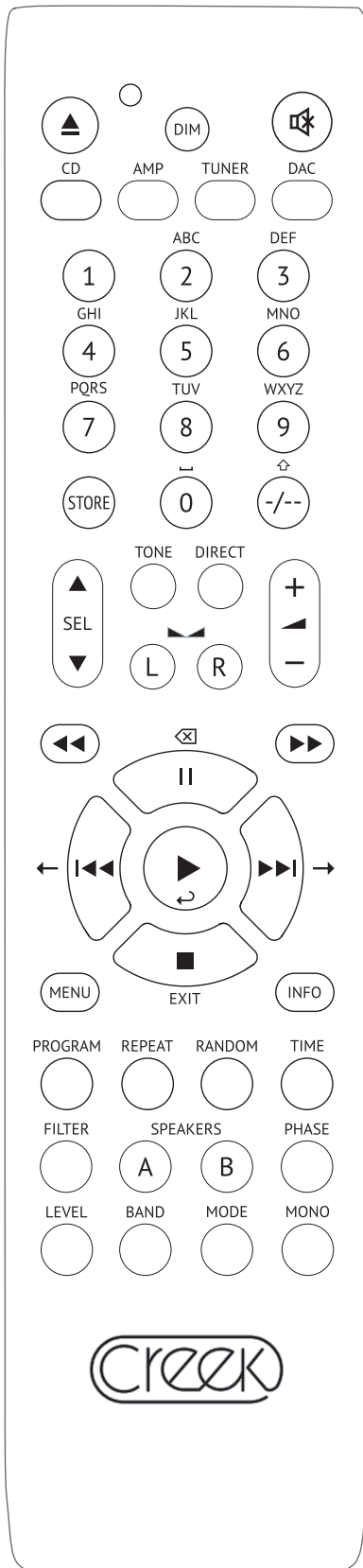
機器の性能を、絶え間なく向上させることが、ハイファイマニアに感謝されることである。しかしながら、サウンドクオリティーでの小さな改良が、電気の消費を犠牲にして、いかに電気代を増加させ、さらに商品のライフサイクルを短くする事となります。EVOLUTION 100Aの待機電力は、僅か20Wであり、現実的です。

しばらく使用されない場合は、フロントパネルの電源スイッチで、EVOLUTION 100Aを切るのを推奨します。通常の性能は、EVOLUTION 100Aアンプの高度な回路のため、非常に短い時間で達成されます。

REMOTE CONTROL - リモコン

EVOLUTION 100Aの新しいリモコンは、アンプ、CD/DAC/プリおよびチューナーの機能を、操作することが出来る。EVOリモコンは、CreekのEVOLUTION 50と100のシリーズに対応しているが、電源のon/offを切り換えることはできない。

リモートの操作は、直感的な操作になるように設計されています。しかしながら、最初にリモコンの先端にある、AMP、CD、TUNERおよびDACを選択するため、適切なボタンを押すことが必要である。



FIRMWARE - ファームウェア

EVOLUTION 100Aでは、ハードウェアとファームウェアの状態を、表示し確認することが出来ます。一度、電源をオフにして、次に、INFOボタンを押しながら、電源をオンにします。スクリーンに“About this unit”と表示されたら、INFOボタンを押します。ファームウェアバージョンとヒートシンクの温度が表示されます。

RADIO INTERFERENCE - ラジオインターフェース

EVOLUTION 100Aは、国内の電波状態で、適切に且つ正常に働くように設計されています。しかしながら、スマートフォンの移動など送信機に近い状態では、その性能が影響されます。この場合、50Aかスマートフォンを移転することで、状況を正常化することが出来ます。

FINAL WORDS - 最後に

EVOLUTION 100Aは、何年にも渡る確かな使用を、提供するように設計されています。より多くのサポートを必要とする場合は、専門家を有する販売店に、助けを求めるのが賢明な方法と言えます。EVOLUTION 100Aが、アフターサービスが必要な程の状況であれば、元のパッキンにて販売店に、送り返されるべきです。

クリークオーディオは、製品の仕様を、事前の予告なしで変える、もしくは変更する権利を有しています。

WARRANTY- 保証

誤まった使用、無知、理由のない変更等ではなく、EVOLUTION 100Aの正当な使用に於ける故障は、クリークオーディオ社の責任に於いて、購買日からの2年間は、無償にて不完全な部分を取り替えます。この保証は、イギリス国内での有効が、法定の権利で与えられています。国外でのサービスは、お買い求めの販売店、もしくはクリークのディストリビューター/輸入業者に於いて、記述されるべき内容となります。

ディストリビューター/輸入業者のリストは、クリークのホームページwww.creekaudio.comを、ご参照下さい。

Technical Specifications:

パワー出力 @ 1% THD	>110 W 8Ω/2ch 駆動
パワー出力 @ 1% THD	>170 W 4Ω/2ch 駆動
連続出力電流	>8.5A (正弦波)
最大供給電流	+/-26 A / 0.5Ω
歪とノイズ (2/3 power 8Ω)	<0.002% 20Hz - 20kHz
S/N	102dBA / ライン入力
周波数特性	<10Hz to >100 kHz +/-2dB
利得 / 1 kHz アンバラ	33.3dB (x 48)
利得 / 1 kHz バランス	27.0dB (x 22.5)
入力感度 / ライン	810mV
最大入力電圧 / RCA& XLR	5.4V and 10.8V r.m.s.
クロストーク	-80dB at 1 kHz
DC オフセット	< +/-10mV
プリアンプ入力	5 x RCA アンバランス (オプションを含む)
プラグイン フォノオプション	INPUT1を、SEQUELフォノカードにて、フォノ入力に変更 (利得: 40、48 ないし 54dB)
パワーアンプ入力	入力 3 & 4 を設定変更 (パワーアンプへの直接入力)
チューナー オプション	AMBIT FM/AM チューナー
DAC オプション	RUBY DAC ブルートゥースモジュール
IR バス	Rセンサーの出力を接続/Evolutionシリーズとの連結
スピーカー出力 A+B	1ペアのバイディングポストターミナル (4mm バナナプラグ、Yラグないし撚り線に対応)
ヘッドフォン出力	1 x 6.3mm ジャック、ローインピーダンス対応 (<50 Ω)
出力インピーダンス	<0.05Ω 20Hz - 20 KHz
電源電圧	AC 100 - 115V 50/60Hz
フロントパネル仕様	シルバーないし黒 (取り寄せ/¥15,000 up)
消費電力: アイドリング、最大	<20 W, 600W
重量	9kg
寸法 W/H/D	430 x 60 x 280mm (足とノブを含む)